

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194300026		
法人名	有限会社 もりと会		
事業所名	グループホーム はなしのぶ		
所在地	釧路郡釧路町別保9丁目28番地		
自己評価作成日	平成22年4月7日	評価結果市町村受理日	平成22年6月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大自然に恵まれた静かな環境に立地して、敷地内にパークゴルフ場があり春になると利用者も地域の方と一緒にプレイするのを楽しみと同時に地域交流を深めています。又四季を感じながら行事を入れ地域の一員として自由に生活できるようにケアの実践に努めています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0194300026&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成22年4月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

釧路町の別保駅近くに開設されている1ユニットのグループホームで、畑で野菜が栽培され、秋には地域の小学生や中学生、地元住民が参加して収穫祭が行われています。また、広い敷地内では、パークゴルフ場があり同業者や地域の人達の交流に利用され、自然環境に恵まれています。法人内では、薬剤師による薬の効用や医師による口腔ケアの研修会を開催したり、グループホーム協議会や行政主催の外部研修の参加が積極的に行われています。家族会が年2回開催され、意見や要望等管理者や職員に言い表せる機会を設け、全体会議を通してそこの意見を運営に反映する取り組みが行われています。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『明るい笑顔で挨拶、家族の和、プロ意識を持つ』という独自のケア理念をホーム内に掲示し職員は常に意識しながら実践に努めています。	事業所独自の理念をつくりあげ、理念を共用空間に掲示し、朝礼時やミーティングを通じて理念を共有している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント等に参加して交流を図っています。	収穫祭の開催や地域の盆踊り参加、空手道場の窓ふき清掃や手打ちそばのボランティアの受け入れ等を通じて地域の人達と日常的な交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の社会実習の受け入れを行っています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現況報告、更に『はなしのぶ通信』により日々の生活状況の報告をさせて頂き要望意見をいただいています。	運営推進会議は、概ね年6回を目安に開催され、行政担当者や包括支援センター職員が参加して防災訓練や避難誘導、地域との協力体制について具体的に話し合っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者とは連絡を取り、相談や情報収集を行いサービス向上に活かすように努めています。	市担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている。また、地域に住んでいる行政職員との交流に努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加して知識を学んで理解した上でケアに取り組んでいます。運営規定及び重要事項説明書に身体拘束に関して明示してあります。	身体拘束廃止の外部研修参加や内部での研修を通じて、管理者及び職員の共有が行われている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加しスタッフ会議の中で情報提供し日常オープンにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学んだ事を職員に報告して理解を深め会議の時も学び合っています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明をさせて頂き理解、納得を図った上で署名、捺印を頂いています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けて意見要望を伺っています。利用者は日々の生活の中で又家族が来設されたときに伝達しております。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように家族会の開催や市町村の相談窓口等の啓発ポスター等掲示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ミーティング等で意見交換を行っています。	全体会議やミーティングで職員の提案や意見を聞くよう機会を設けている。また、理念を達成するための個別の目標を設定している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長が常に(報、連、相)を行う事によって把握して頂いています。又目標を立て達成した時には職員が希望する海外研修の実施等も考えています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に積極的に参加し研修内容を報告する事になっている。スタッフ会議では介護について等の情報交換を行いスタッフのスキルアップの向上に努めています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	釧根地区グループホーム協議会を通じ交流を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた時点で本人に面談し、本人の思いや要望等を傾聴し話し合いを重ね状況を把握し安心して頂ける様に配慮しています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受け家族と面談、見学して頂き思いや要望等を傾聴し話し合いを重ね状況把握し安心して頂ける様に配慮しています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け本人や家族の要望や状況を見極め現在のケアマネや地域包括からの情報を頂き連携しながら必要な支援に努めています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と共に過ごすことを喜びとし料理、掃除、買物や、ならわし等教えて貰うことを大切にしながら支え合う関係を築いています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはお互いの情報交換を行う中で本人の代弁者にもなり理解を深め良い関係作りに努めています。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域とその繋がりのある方を思う気持ちに寄り添い友人に来て頂いたり又、ドライブ等可能な限りその人の思いに近づけるように努めています。	併設しているデイサービスに通う馴染みの人達との交流や地域に暮らす友人や知人の訪問が定期的であり、継続的な交流ができるように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係がより良くなるようにスタッフが間に入り交流の援助を行ったり見守りしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、入院先へ訪問し面会をして必要に応じています。相談や助言も行っていきます。又家族にはホームに立ち寄って下さるように伝えています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの個性と生活暦を考慮し利用者や家族と接する中で思いや意向の把握に努めています。困難な場合は表情や様子から思いを汲み取り希望に沿うよう支援しています。	センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、職員間で情報の共有が行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報、個人のケア記録にて現状の把握に努めています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の意向を踏まえ、ケアマネは職員の意見、ケア記録を反映しながら本人本位の介護計画を作成しています。	センター方式を利用して本人、家族の意見や思いを反映するようにしている。また、全体会議、ミーティングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録に基づき小ミーティングを開いたり連絡ノートの活用で見直しに活かしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアが入る日はディサービスの方と共有し楽しんで頂いています。又買物ドライブ等も取り組んでいます。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて交番、消防、地域の方の協力をお願いしています。又地域のボランティア、教育機関(小、中学校)と協力しながら支援しています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の連携は行っていますが、入居前にかかりつけ医がある場合はそちらとも連携を図りながら支援しています。更に往診体制もとっています。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、内科医、皮膚科の医師の往診が受けられ適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化(内面、外面)に気づいた時は、すみやかに相談をして適切な指示を頂き支援しています。(24時間対制)		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関へ情報提供し、退院時にも同じように情報交換や相談に努め退院後の支援につながる関係作りを行っています。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては本人、家族、医師と段階をみながら話し合いターミナルを希望される方は看護や医師と協議の上、又スタッフにも周知し共有していく。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にそなえ緊急時のマニュアルを作成し職員が早期対応出来るようにしています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の災害訓練の実施。地域の方にも参加して頂き協力体制を図っています。地域の方との会議を開いて今後の通報等、具体的にしていこう所です。	消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施している。また、別保の総合避難訓練や防火安全対策会議に参加している。通報装置も設置され班長に連絡がいくようになっていく。	今後は、夜間の火災等の災害を想定した避難訓練の実施を期待します。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を基本として個々に対する支援に取り組んでいます。	身体拘束廃止や全体会議等を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で何を望み何を思っているのか感情を共感しながら又行きたい所や行いたい事を選択出来るように自己決定の場を作りだしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活パターンを把握し天候や体調に気を配り、本人の希望を出来るだけ優先に支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容室は月1回の訪問にて行っています。(入居者、家族の希望により)皆さんおしゃれです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いはず、毎日の炊事や片付けをスタッフと共に行っている。又仕事が生きがいと感じて喜んで取り組んで下さる。常に五感を楽しみながら。	毎日の調理や食事の準備等職員と本人と一緒に楽しく行っている様子が伺えた。また、畑で収穫した野菜など食事に提供されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態を把握した上で食事の量、糖等に常に配慮しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの施行。歯科医師の往診により口腔チェック		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に定期的にトイレ誘導し排泄の支援を行っている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように時間を見計らって支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を基に食物繊維、水分摂取に気をつけ更に運動不足に気を付けています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者同士の希望で二人で入浴し入浴剤によっても温泉気分を楽しんで入浴されています。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、本人が希望すればいつでも入浴が可能となっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを崩さぬように配慮し日中の活動を促しながらも気を配り自由に休める支援を行っています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋(薬の説明)の確認を怠らず特に薬の変更があった時には診療報告書に目を通し薬の目的、副作用、用法や用量等の理解に努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活、趣味(調理、畑、買物、ドライブ、コンサート他)を把握し個々に合った役割、楽しみ事を支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気温などに配慮し散歩、ショッピング、ドライブ又はホームの買物の同行でホームも助かり本人も大変喜んで下さっています。	一人ひとりの希望にそって、日常的な近隣への散歩やスーパーでの買い物、パークゴルフで地元の人々との交流、町内会行事参加等戸外に出かけられるように支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族と話し合い殆どの方は事務所内の金庫に保管している。但し本人の希望で購入品がある時にはいつも使えるように。買物時には財布を持っています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をするのは自由にしていますが本人の訴えでスタッフがかけて声を聞かせてあげたり、手紙の代筆もあります。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に緑を置き、楽に靴を履けるようにベンチを設置。台所カウンター(6m位)では自由にコーヒー、お茶を飲めるようにし、居間各居室からは四季折々の自然を楽しめます。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、玄関には花が置かれたり、リビングや廊下の壁には、季節毎の飾りつけや行事参加の写真等が飾られ居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間から離れた場所に気の合った同志がくつろげる談話室を設置、少し離れた場所にソファを置いてみたり工夫しています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に試用していた馴染みの物を用意していただいたり本人が生活しやすいように工夫しています。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置により廊下、トイレ、脱衣場、風呂場での広い空間で行動の自由を保っています。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防災訓練は消防署、近隣住民が参加して、年2回実施しているが、夜間を想定した避難訓練はまだ実施していない。	早急に夜間避難訓練を実施する。	町内会と合同の夜間を想定した避難訓練を実施し、検討会を開催する。	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。